

歩く避難路の整備を

・ エゾシカ処理施設の活用を



山本 議員

1 来年度、初の避難訓練を実施

問 東日本大震災被災地へ管理職や若い職員をぜひ現地に派遣してはどうですか。

中村村長 そういう経験は今後の防災体制に必要ですが、今の人員体制で派遣は難しいです。

問 先日の台風12号のように局地的豪雨はいつ発生するかわからない。毛布、非常食、ラフトボートなどの備蓄・備品は、その後どうなっていますか。

中村村長 非常食は、今後計画的に備蓄したい。今回は毛布150枚など予算計上し、今後は保管庫も確保して、備蓄物を整備します。

問 唯一の避難路である中学校

への坂の下は浸水箇所です。災害時には危険。運動公園や宮下から中学校へ歩いて登る道を、人の避難路として整備しては。

中村村長 千歳の堤防沿いの道路は若干の補修を検討したい。歩いて避難する経路も、昔の遊歩道を整備できるのか検討します。

問 各家庭や独居老人等、地域でも確認のため避難訓練を実施すべきで、考えを伺います。

中村村長 今年度は実施できませんが、新年度は実施予定で地域もしくは全村でやるのか検討したいと考えます。

2 エゾシカ対策

問 エゾシカの村内の生息状況と近年の農業被害の状況は。

中村村長 道内頭数は推定65万頭。村内も増加傾向で農業被害は牧草のみのデータで、平成20年808万円、21年度649万円、22年度380万円です。

問 農業被害軽減のため施設を早期に建設すべきだが、建設場所と完成予定は。

中村村長 建設場所は字占冠、旧高谷木材跡地で、建設費は概算で3950万円。完成は今年度内を目指し、今後、補正予算を提案する予定です。

問 運営は民間と聞いているが、山菜工場の二の舞の危険性がどうか、行政が経営に関わるのか伺います。

中村村長 施設は村が建てて管理し、運営は実際に使う人が行います。普及活動には側面的支援を行いますが、経営に直接携わることは一切ありません。

問 施設の衛生面対策は。

中村村長 残滓は汚臭が発生しないよう冷蔵・冷凍保存し、排水は法令に基づき処理します。

問 エゾシカ肉の具体的な有効利用は。村民は気軽に購入できるようになるか伺います。

中村村長 一般家庭、商店、道の駅、トマムリゾートの消費も考え、将来的に農産物や山菜等々、融合した製品開発も検討します。企業と連携し地域プラ

ンドのシカ肉普及を応援する体制づくりも考えています。

問 エゾシカは持続可能で、環境にも良い食料です。村民の利益につながり、地域で広げる考えは。

中村村長 道で第4火曜日をシカ肉の日と制定し、村も「占冠産」の消費流通を支援したいと考えています。

問 厚真町ではハンターの死亡事故など住民にとって危険が増すことがないか伺います。

中村村長 占冠は狩猟で個体数を減らす道を選びました。エゾシカ対策協議会ではマナー講習会や、将来的に猟区設定も検討することとなっています。

3 少量多品種の新規農業プランを

問 農業人口減で高齢化し農業が単一化しているが、村内外から新規就農の具体的なプランがありますか。

中村村長 農業委員会の答申で占冠村新規就農等支援対策実施要項に、新規就農対策、後継者対策があり、本年度中に要項を見直し、新規就農対策を進めたいと考えています。

問 昨今、道の駅やリゾートでも消費地があり、観光につなげる多様な新規就農プランが必要だと思いますが伺います。

中村村長 この3年で新たに具体的なプランを作らなければ村の農業は崩壊する可能性があります。国の政策も大型化・機械化しており、少量・多品種の農業が適しているか農業委員の意見も聞いて進めたいと考えています。

4 広報への死亡者 出生者の掲載再開は

問 村広報への死亡者、出生者の掲載を家族に確認し、掲載再開できませんか。

中村村長 これまで個人情報保護から掲載を控えてきました。広報掲載は基本的に本人や家族からの申し出となり、掲載有無のトラブルや公平性を考え、難しいものと考えています。

問 小さいコミュニティの中で情報共有は大切だと思うが、今後、検討してはどうですか。

中村村長 個人情報保護を度外視しても、小さなコミュニティから始まれば可能と感じます。